

(仮訳)

## プレス・リリース

2019年10月31日

### バーゼル銀行監督委員会は規制・監督上の取組みについて議論し、規制の実施に係る報告書を承認

バーゼル銀行監督委員会（以下「バーゼル委」）は、2019年10月30日から31日にかけてスペイン・マドリッドで会合を開催し、規制・監督上の諸課題について議論したほか、各メンバー法域における金融危機後の規制改革の実施について状況把握（ストックテイク）を行った。

バーゼル委は、以下の点について議論した。

- 信用評価調整（CVA）リスクの枠組みの限定的かつ焦点を絞った調整の最終案を市中協議することに合意した。当該市中協議文書は11月に公表される。バーゼル委メンバーは、CVA リスクの枠組みを、その他のバーゼルⅢの基準とあわせ、2022年1月1日に実施する意向を再確認した。
- 2019年1月に最終化されたマーケット・リスクの枠組みに関する開示要件の修正案の市中協議を行うことに合意したほか、銀行のソブリン・エクスポージャーに関し、各法域が実施するか否かを自由に判断できる任意の性質の開示テンプレートの市中協議を行うことにも合意した。これらの市中協議文書は来月公表される。
- 暗号資産の健全性規制上の取扱いに関するディスカッション・ペーパーを公表することに合意した。バーゼル委は、銀行の暗号資産エクスポージャーに係る健全性規制上の取扱いは、暗号資産の高いリスクを適切に反映すべきとの見解を改めて表明した。また、バーゼル委は、暗号資産市場において現在進められている取組みを踏まえ、暗号資産の健全性規制上の取扱いに関連した広範な事項について、関係者の見解を求めることにした。
- 健全性規制当局と、資金洗浄・テロ資金供与対策に責任を有する当局との協力の強化に関するガイドラインの市中協議を行うことに合意した。これらのガイドライン案は来月公表される。

- アルゼンチンと中国における安定調達比率（NSFR）及び大口エクスポージャー規制の実施状況を審査した報告書のレビューを行った。本報告書の公表は11月を予定している。

バーゼル委は、金融技術の銀行業務や監督への含意に関する作業について議論した。バーゼル委は、オープン・バンキングやアプリケーション・プログラミング・インターフェース（API）に関する報告書を来月公表することに合意した。今後、バーゼル委は、①金融サービスにおける人工知能や機械学習の利用に伴うリスク管理上の課題、②規制されていないサード・パーティへの銀行の依存と、業務委託を監督する枠組みへの含意、及び③データガバナンスや管理、データ・セキュリティ、ポータビリティ、リカバリーに関する監督上の課題について、深度ある評価を行っていく。

バーゼル委は、金利指標改革に関する状況把握を行い、銀行の代替金利指標への移行により生じる潜在的な規制・監督への含意について議論した。バーゼル委は、本件の優先度を高く位置付けており、全ての銀行が移行期限に間に合うよう、適切に準備できていることを期待している。また、バーゼル委は、この達成を助けるために更なる規制・監督上の措置が必要か、検討していく。

現在進められている金融危機後の規制改革の影響に係る影響評価とモニタリングに関する作業計画の一環として、バーゼル委は資本バッファの利用可能性について議論し、資本バッファの枠組みの重要性を改めて表明するとともに当該バッファが利用可能なように設計されている点を強調するためのニュースレターを公表した。

バーゼル委は、外為取引の決済に関連するリスクを管理するための監督上の指針の実施や当該リスクの削減に向けた更なる対策の必要性といった、追加的な監督上の取組みについても議論した。また、バーゼル委は、気候関連の金融リスクに係る作業や、予想信用損失（ECL）会計の監査についても意見交換を行った。

バーゼル委はまた、次回の銀行監督者国際会議の日程及び開催地を本日発表した。